

寅さん歩 その21



南フランス プロヴァンス 散歩—2

平野 武宏

2019年（令和元年）10月開催の第16回国際市民スポーツ連盟オリンピックフランス大会に参加しました。2年に1回の開催で、開催地は持ち回り、今回は南フランス エクス・アン・プロヴァンスです。国際市民スポーツ（ウォーキング・スイミング・サイクリング他）を自由に楽しむ大会です。

〔2019年10月16日〕大会1日目サイト：5 エクス・アン・プロヴァンス

ウォークブック（英語、地名などは仏語）によるとウォーキングは5のサイト（会場）18コースに分かれており、街内以外のサイトはバスで行くため、10名は同じサイト毎の希望コースを出し、皆で行動しようと、サイトを決めました。

ウォークブックの中には各コースの地図（写真右）がありますが、「あなたのモバイルフォンでダウンロード、インストールのやり方」が書かれた英・仏語のメモがあり、ウォーキングもすっかりデジタルの時代になったと、置いて行かれた感の寅次郎です。でも各コースの各所には距離別の色付きシールが貼られていますので、それを見ながら歩けます。今日のコースサイト5のエクス・アン・プロヴァンスのウォーキングのコースは6・13・19kmです。



まだ足のリハビリ中の寅次郎、高低差の低い6kmの街のお散歩コースを選びました。スタート・ゴール（写真左）の脇の芸術・文化の建物（写真下右）は「隈研吾の設計だ」とフランス人から教わりました。帰国して調べたら、隈研吾氏は2009年にフランス文化芸術勲章を受章していました。



エクス・アン・プロヴァンスはローマ時代に拓けた街で昔の遺跡が残っています。又、「エクス」とは水を意味し、街の至る所に噴水がありました。表題脇の噴水は昨日のパレードスタート地点のドゴール広場の噴水です。

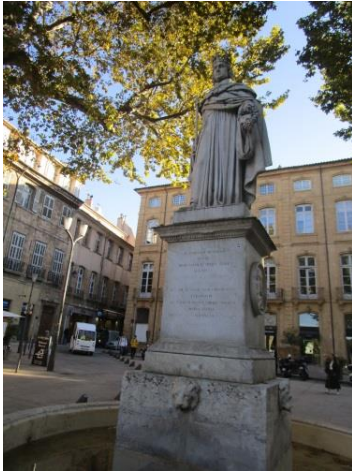
各コースは丸い色別のシール（写真下左）を辿って歩くことができます。でも次のコーナーでシールがなく、見逃したと気づいたら、また元の場所に戻り、探します。像も多くあり、プラタナスの緑が朝の陽ざしに輝いています。



エクス・アン・プロヴァンスは印象派を代表する画家セザンヌの生まれ故郷で愛した街です。彼がよく通った道にはセザンヌの刻印を彫った道標（プレート）（写真下左）が埋め込まれていました。



写真上はサン・ジャン・ド・マルト教会で右側はプロヴァンスを愛した画家グラネの名を冠したグラネ美術館です。（写真左）セザンヌの作品を含む16世紀～19世紀の絵画が展示とのこと。



写真上は裁判所のようなです。

裁判所前の広場で見た光景です。(写真右)
車が来たのを向かって左の柱が感知し、車
の前に立っていたポールが下に潜りました。
車の前の黒い丸です。車が通過すると、
ポールは又上がって来ました。



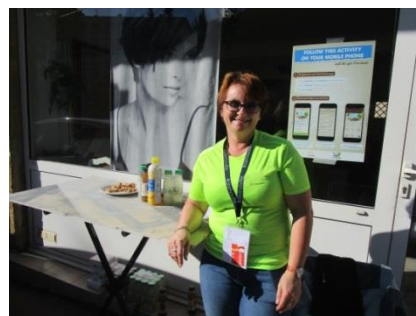
写真左はサン・ソヴール大聖堂で2世紀～
17世紀までの様々な建築様式が入り組んで
いるとのこと。朝の散歩でホテルのすぐ近
くの場所と判明しました。

コース目印を見つけながら旧市街の細い道
を像、教会等の建物を見ながら歩きました
が像の名前はよくわかりませんでした。

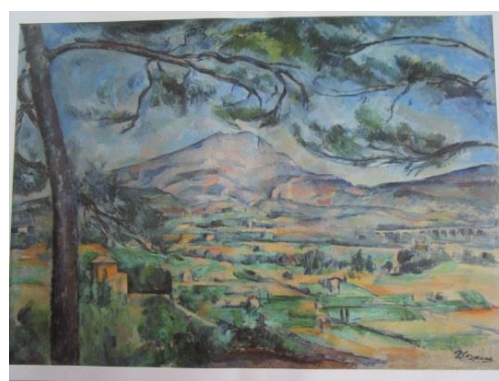
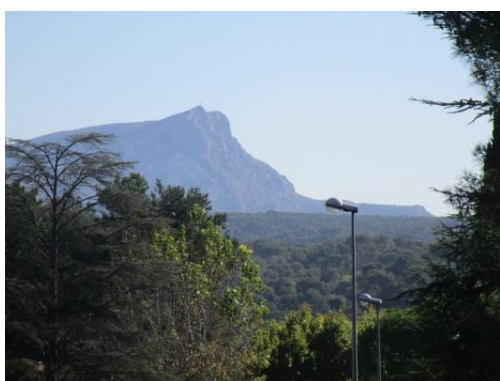


旧市街を出て、坂道を上がると、チェックポイントがありました。マダムがお迎えです（写真右）
飲み物やりんご、チョコレートがあります。

近くにはセザンヌのアトリエが残されています。写真下左は門、右は中の建物です。



アトリエの先の坂を上ると、セザンヌが愛し、数多くの作品の画題にしたサント・ヴィクトワール山（写真下左）が見渡せました。写真下右は「大きな松のあるサント・ヴィクトワール山」で寅次郎、日本で朝日新聞に申し込んでいた「魅惑の印象派絵画」の第4回がセザンヌで旅行中に届いていたセザンヌの作品コピーです。



寅次郎、セザンヌのアトリエ近くの坂の段差を踏み外し、危うく転びそうになりました。やはり年と共に足が弱っているのを実感です。街で名物菓子カリソンを買いました。15世紀、エクススの王に嫁いだ若き王妃を慰めるために献上されたのがその由来とか。



夕食は外のレストランで前菜は3品をシェア、メインはイベリコ、海老、ポーク、舌平目、ストロングソーセージから昨夜に懲りて肉を避け、エビ料理を食べた寅次郎です。

次回は 南フランス プロヴァンス散歩-3 です。

平野 寅次郎 拝